

# 中間駅周辺地域のまちづくりに関するアンケート

## 結果報告

### はじめに

さいたま市では、地下鉄7号線（埼玉高速鉄道線）の延伸に伴い、中間駅周辺地域のまちづくりの在り方を検討しています。アンケート調査は、まちづくりの在り方についてご意見やお考えをお聞きするために、さいたま市岩槻区の柏崎地区及び和土地区にお住まいの18歳以上の方1,000名（無作為選定）を対象に実施しました。

### アンケート実施概要

回答期間：10月5日～10月27日 ※12月末までの回答も含む

回答方法：返信用封筒に入れて郵送、もしくは、インターネットで回答

回答人数：378名（郵送回答：274名、インターネット回答：104名）

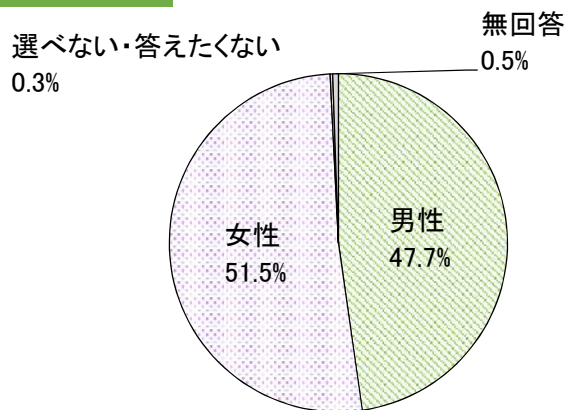
### アンケート内容

1. 回答者の基本情報（性別・年齢、居住年数など）
2. 『地下鉄7号線中間駅まちづくり方針』のまちづくりのテーマ4つの重要度
3. 『地下鉄7号線中間駅まちづくり方針』の施策イメージ7つの重要度
4. 各施策イメージで希望する機能・施設・空間
5. 中間駅周辺地域のまちづくりの実現に向けて参加したいと考える住民主体の活動
6. その他自由意見

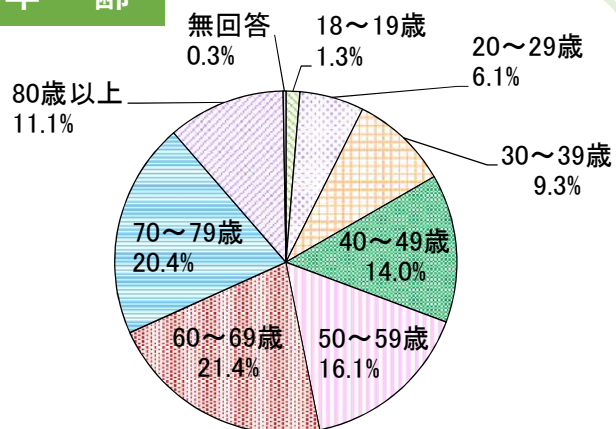
# 1. 回答者の基本情報

n = 378

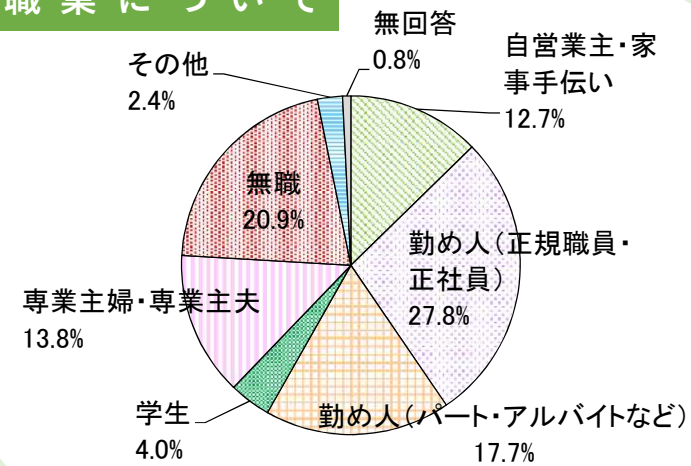
## 性別



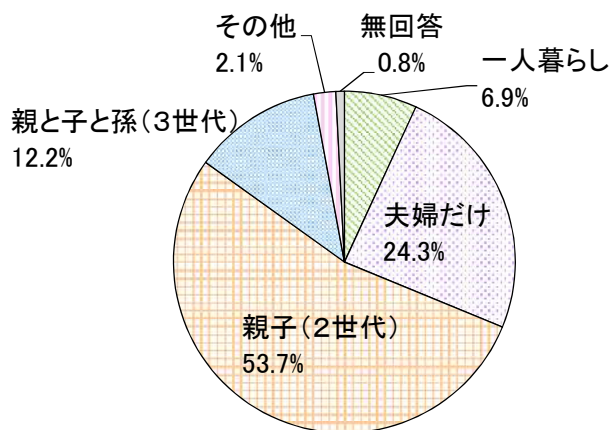
## 年齢



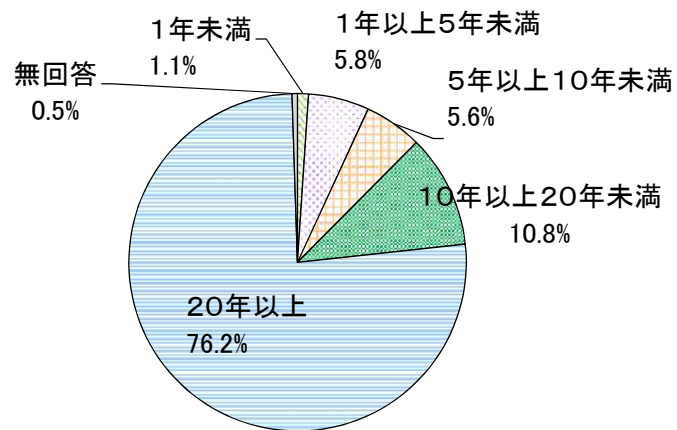
## 職業について



## 同居している家族構成について



## 居住年数



## 2. まちづくりのテーマ4つの重要度

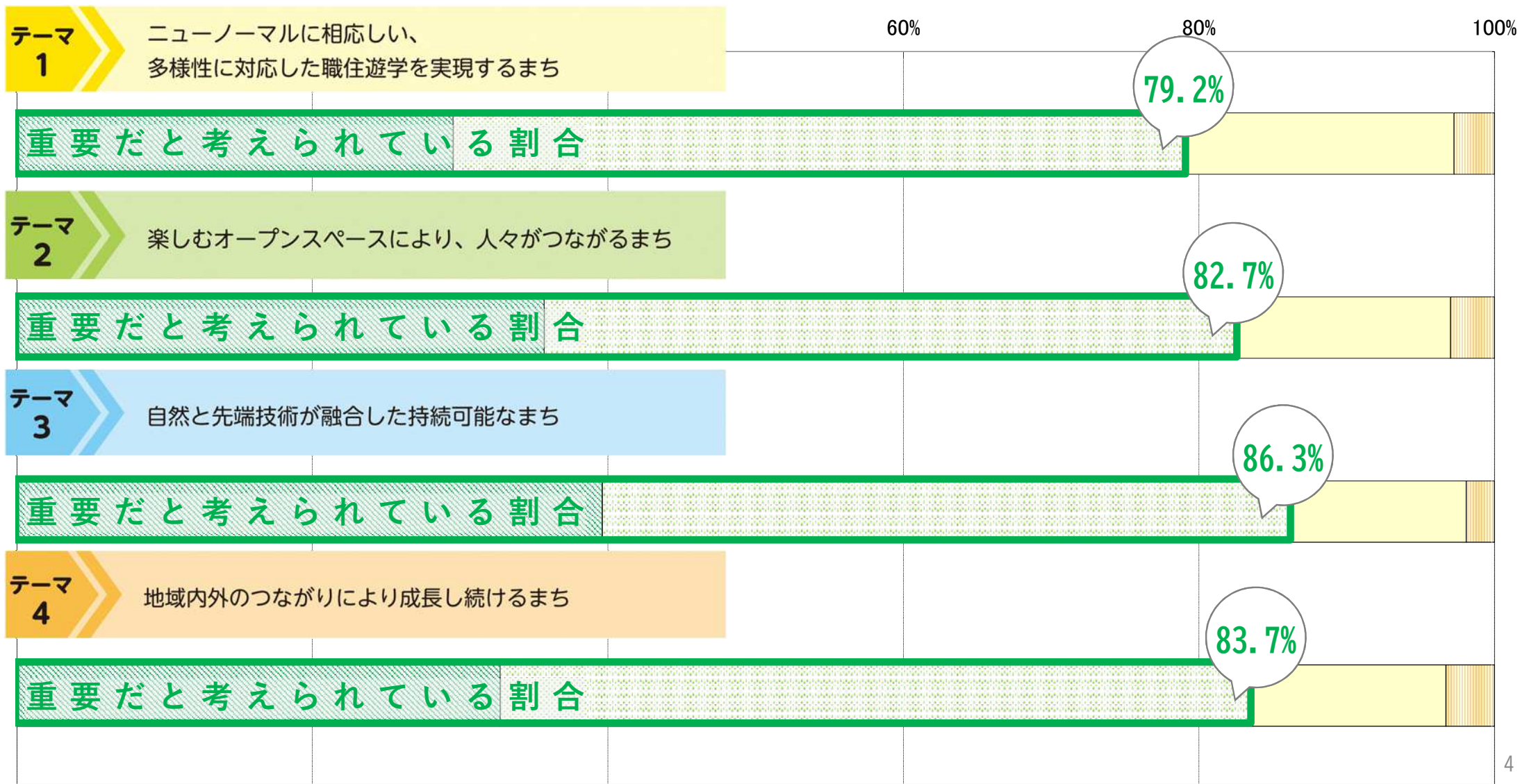
☑とても重要だ

□重要だ

□どちらでもない

□重要ではない

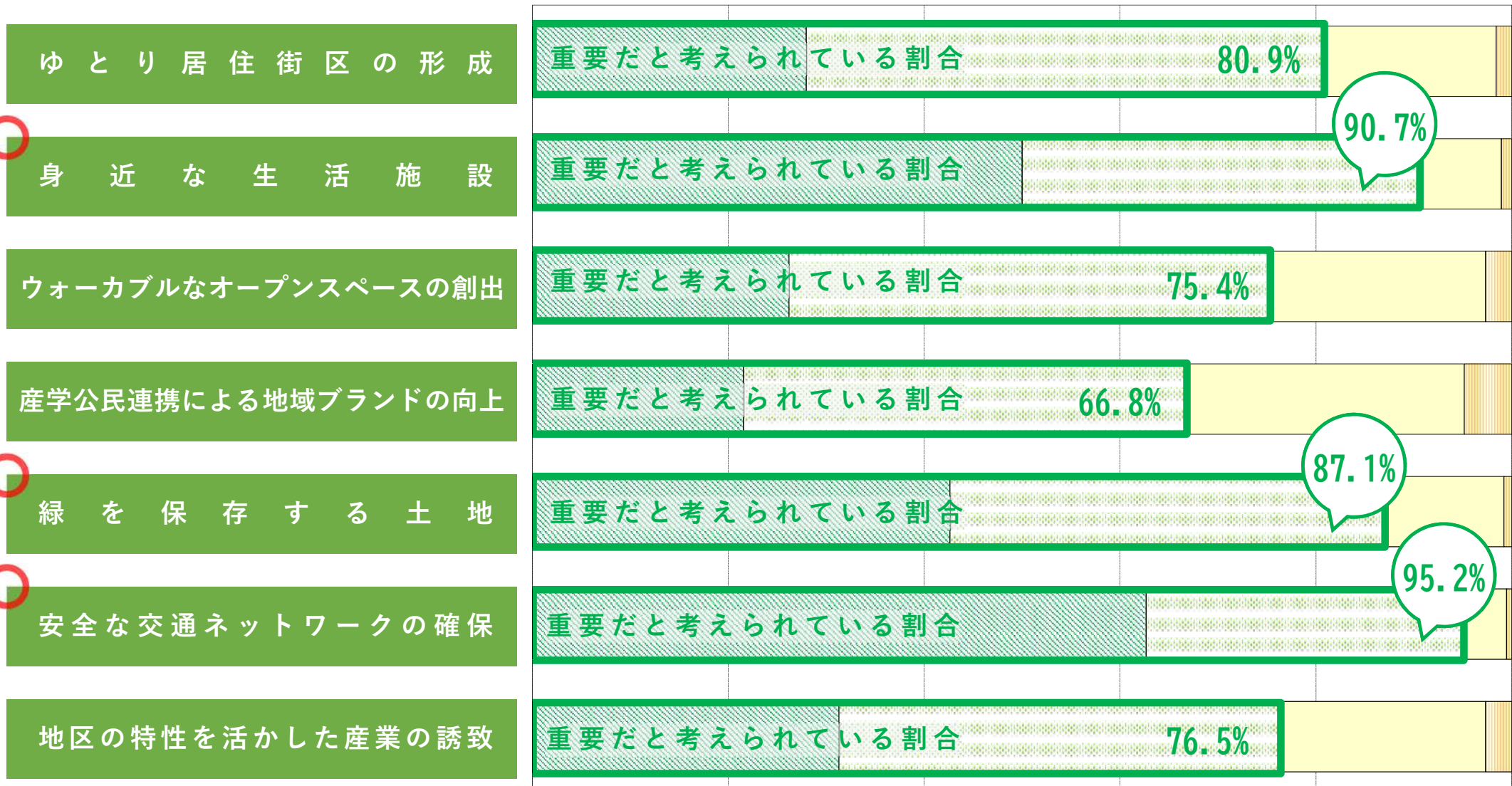
n = 378





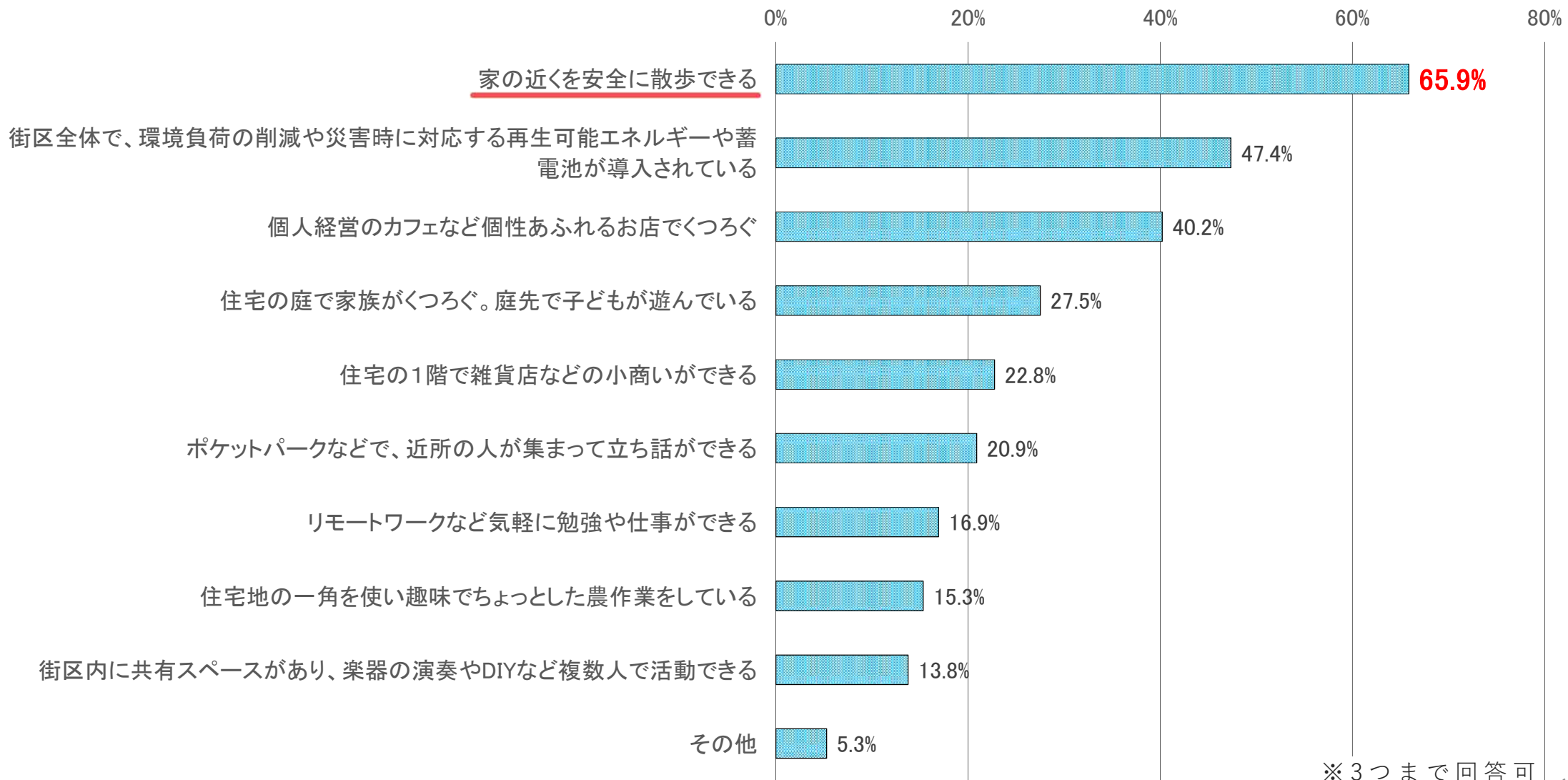
### 3. 施策イメージ7つの重要度

とても重要だ   
  重要だ   
  どちらでもない   
  重要ではない



## 4 - 1. 「ゆとり居住街区の形成」でしたい活動・されているとよい活動

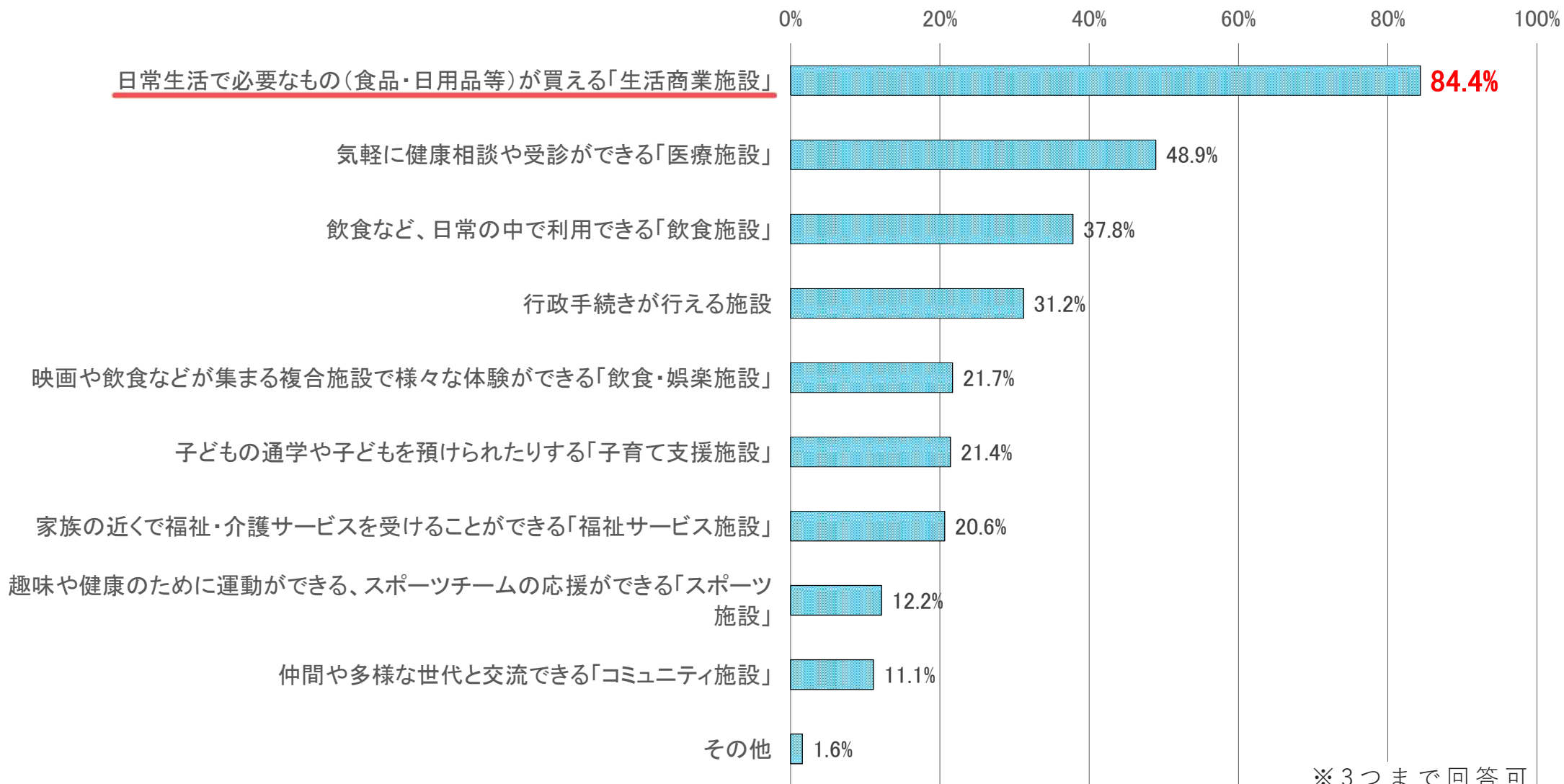
n = 378



※3つまで回答可

## 4 - 2. 「身近な生活施設」として身近にあるとよい施設

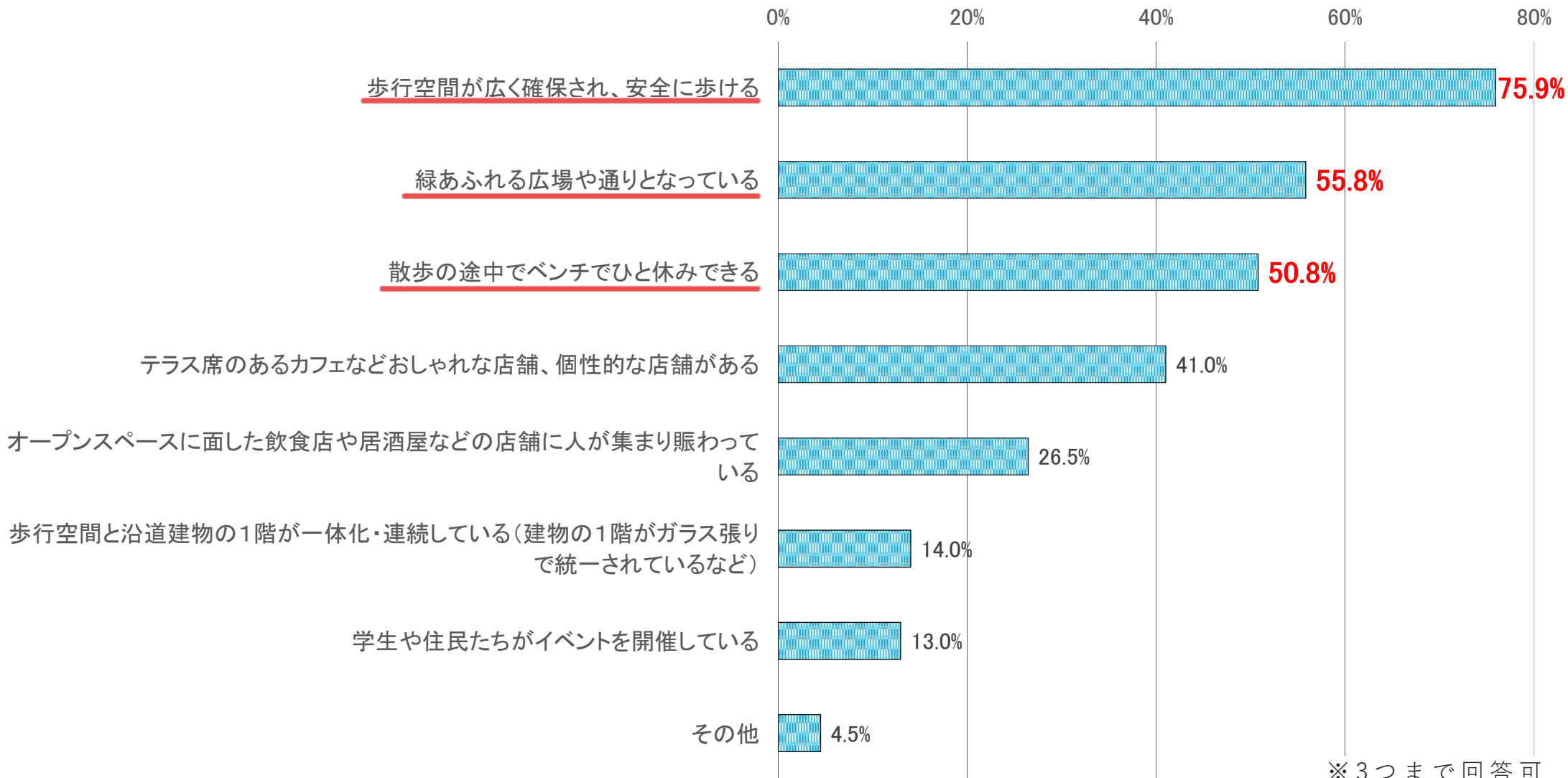
n = 378



※3つまで回答可 7

### 4-3. 「ウォーカブルなオープンスペースの創出」として居心地がよく歩きたくなる空間

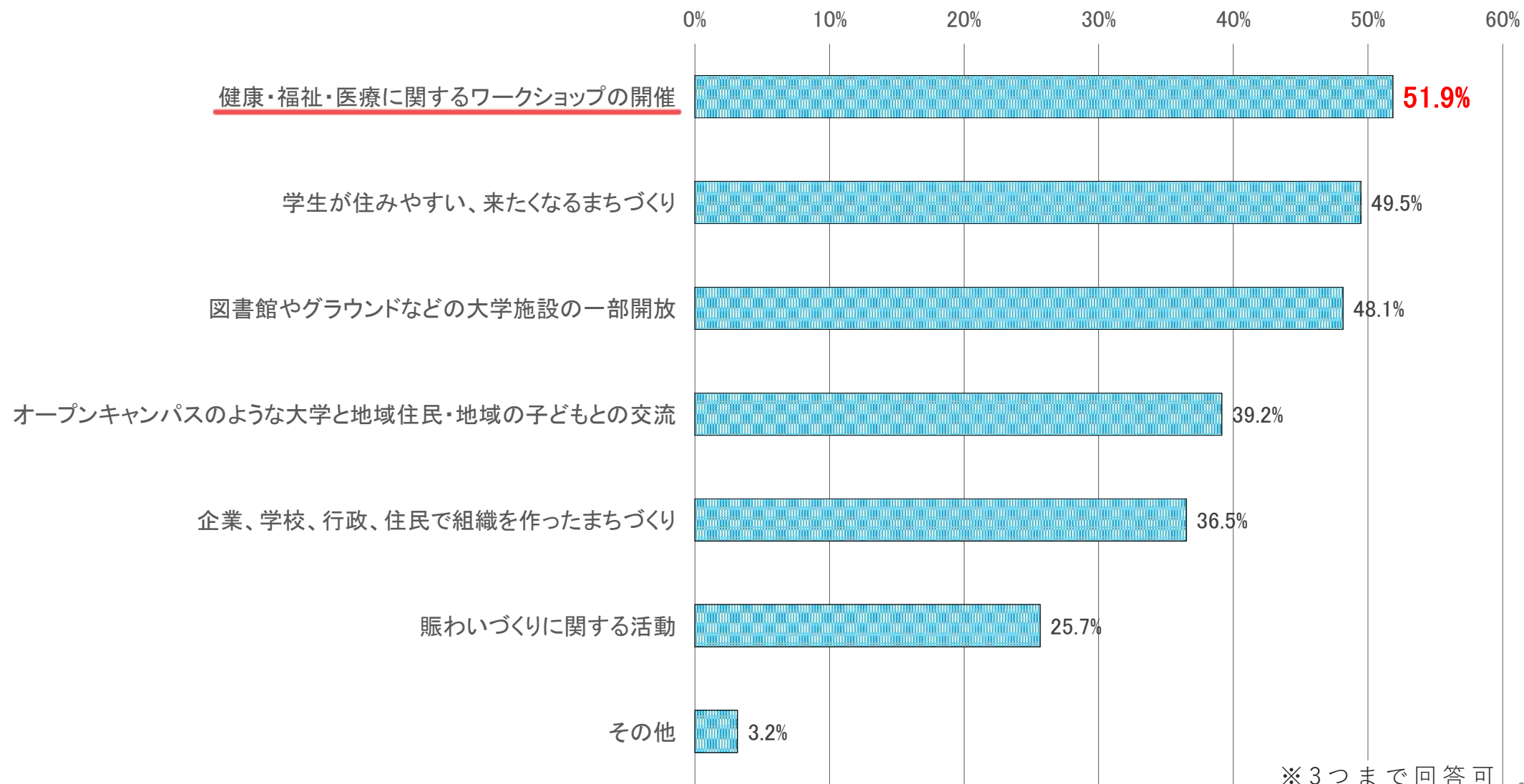
n = 378



※3つまで回答可



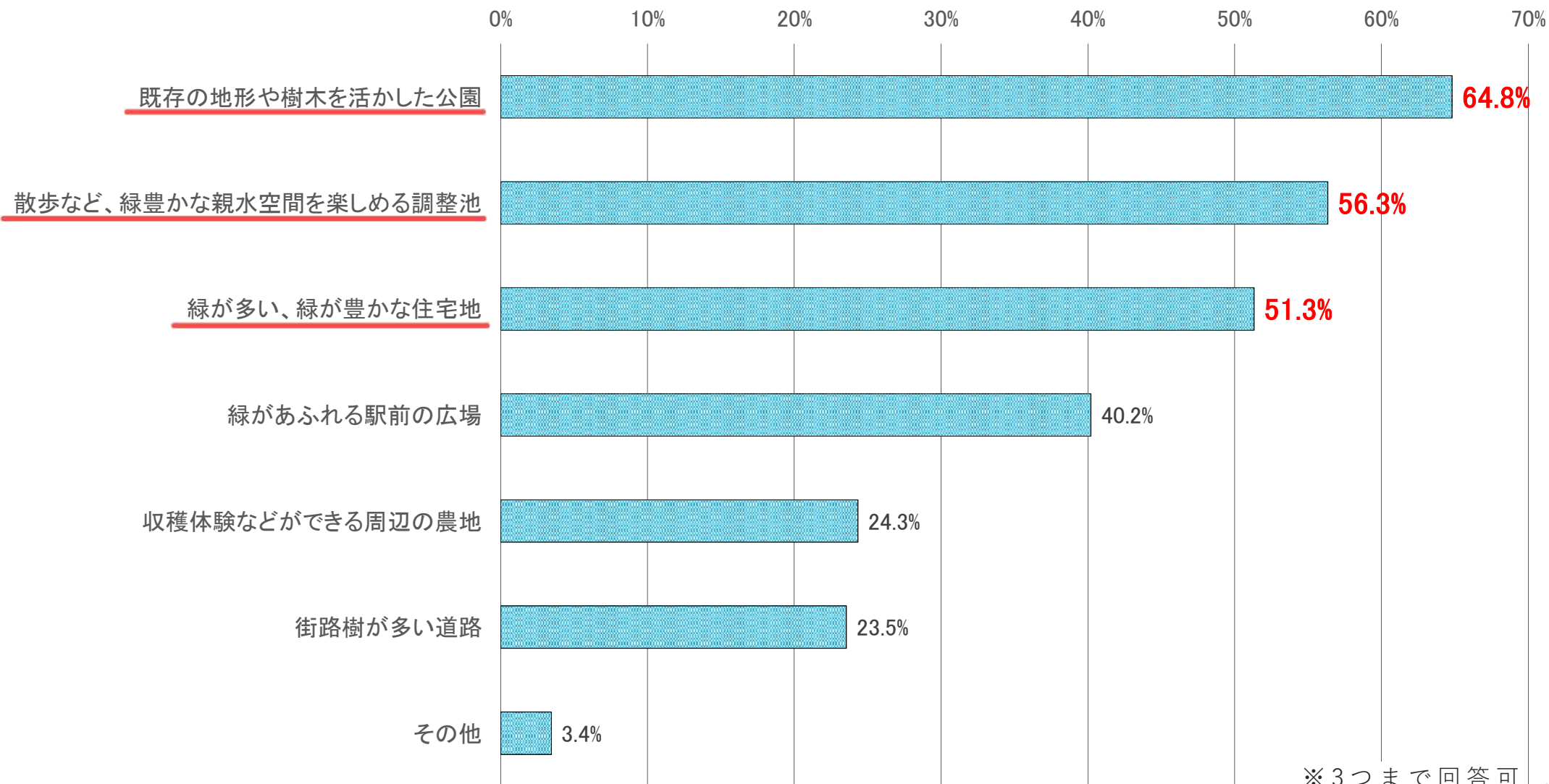
#### 4-4. 「産学公民連携による地域ブランドの向上」として目白大学との連携であるとよい施策 n=378



※3つまで回答可 9

## 4 - 5. 「緑を保存する土地利用」について、あるとよい緑の空間

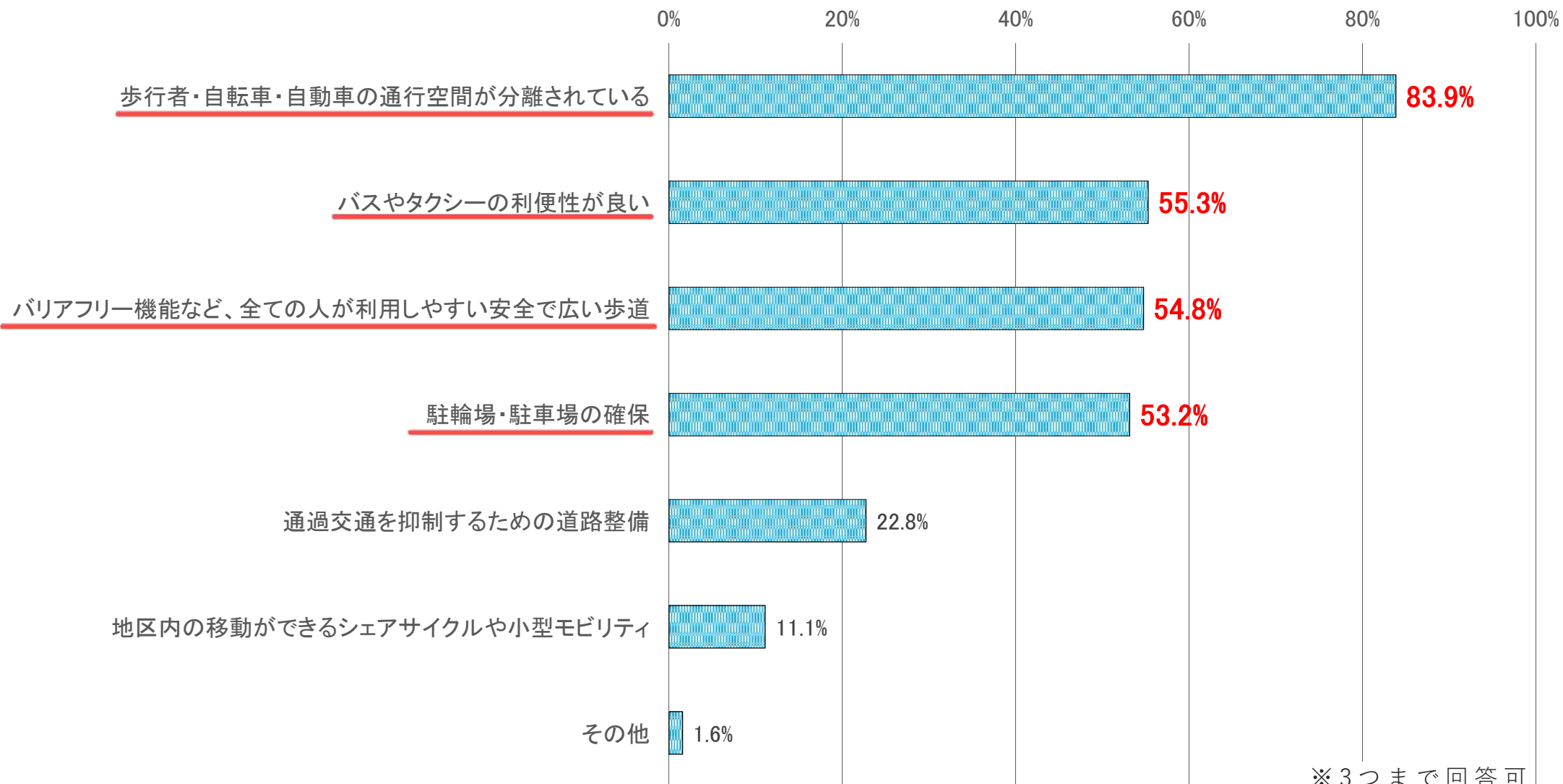
n = 378



※3つまで回答可 10

## 4-6. 「安全な交通ネットワークの確保」について、欠かせない機能・施設

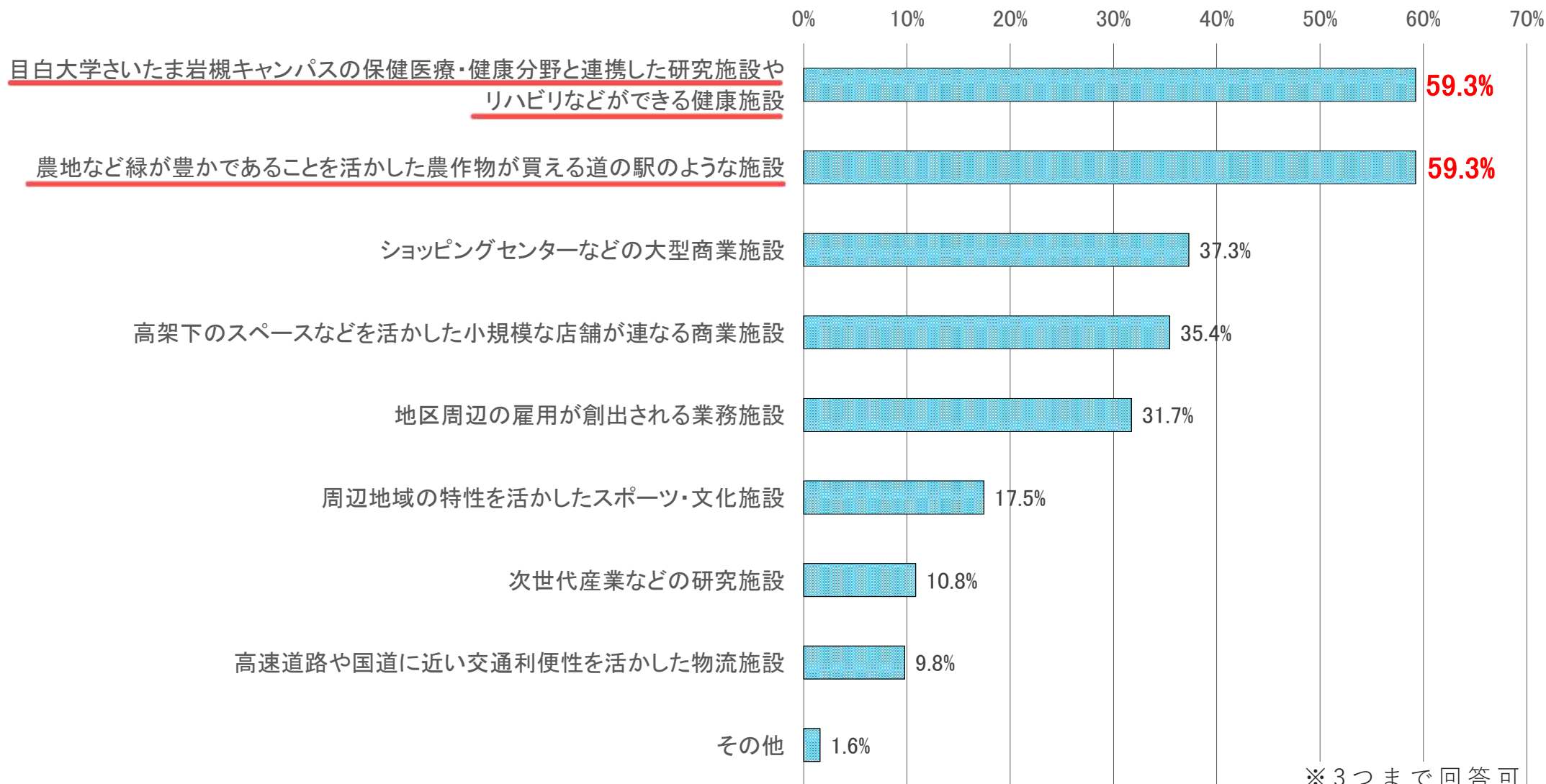
n = 378



※3つまで回答可 11

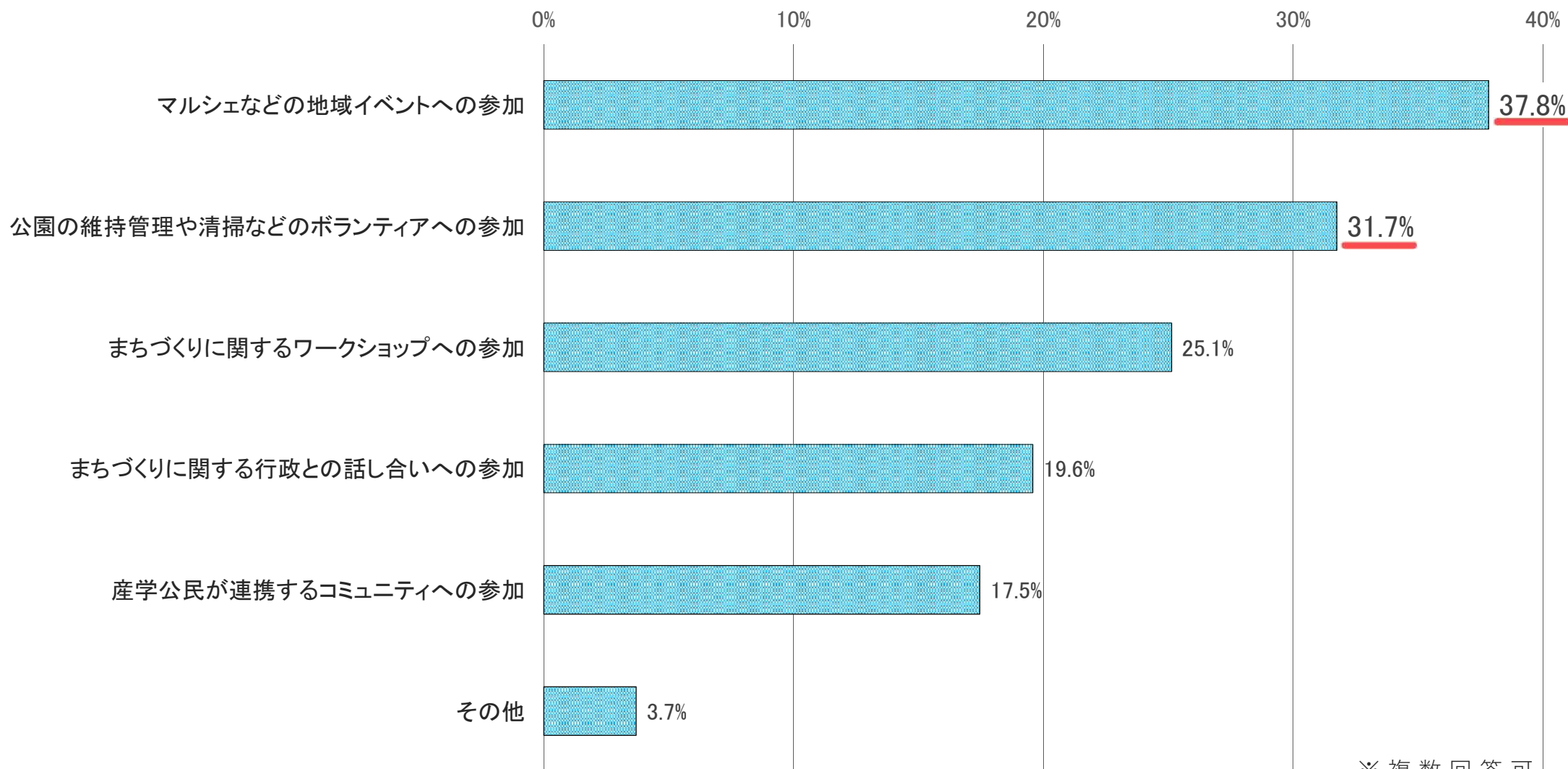
## 4-7. 「地区の特性を活かした産業の誘致」について、本地区にふさわしい産業（施設）

n = 378



※3つまで回答可

## 7. 中間駅周辺地域のまちづくり実現に向け、参加したいと思う活動



※複数回答可 13



## 8. その他自由意見

### □ 交通・アクセス

- 周辺との道路ネットワークを考えて整備してほしい。
- 大型トラックなどが走る幹線道路と、生活道路を区別してほしい。
- バス利用（バス停位置、運賃など）について考えてほしい。
- 車以外の交通手段がとれる地域にしてほしい。 など

### □ 生活サービス・娯楽等施設

- 若者向けのレジャー施設があったらよいのではないか。
- 休日に人が集まることができる娯楽・商業系の施設がほしい。
- スーパーマーケットや薬局がほしい。
- 歩いて行けるスーパーマーケットやカフェなどがあるとよい。
- 農業を中心とした商業的な施設がほしい。 など

### □ 住環境

- バリアフリーやユニバーサルデザインの観点から意見を取り入れてほしい。
- 田舎らしさが残りながら都心へ働きに出れるエリアとしてファミリー向けがよいのではないか。
- 持て余している農地を活用できる環境がよい
- 高齢者にとっても住みやすいまちがよい。 など

## 結果の整理・まとめ

- 施策「ゆとり居住街区の形成」「ウォーカブルなオープンスペースの創出」「安全な交通ネットワークの形成」の具体的な機能・空間等では、“安全”に関連する空間や施設が、回答者の半数以上に求められている傾向がありました。
- 施策「緑を保存する土地利用」の重要度が高いことや、具体的な機能・空間等では既存の地形や樹木を活かした公園が回答者の半数以上に選ばれていたこと、また、「地区の特性を活かした産業の誘致」では農作物が買える道の駅が最も多く選ばれていたことを踏まえ、地区の自然やみどりが重要視されている傾向がありました。
- 施策「身近な生活施設」では、生活に欠かせない食品・日用品等が買える「生活施設」が回答が最も選ばれていることが分かりました。
- まちづくりの実現に向け参加したいと思う活動については、「マルシェなど地域イベントへの参加」や「公園の維持管理や清掃などのボランティアへの参加」が回答者の3割以上に選ばれており、議論の場よりも、気軽に参加できるイベントなどのまちづくり活動が選ばれる傾向にありました。



緑が豊かな地区の特性を活かしつつ、 すべての人にとって安全なまち  
が求められている。